



CentreCOM® 8948XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.E）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.7.5-03

2 本バージョンで追加された機能


ソフトウェアバージョン **2.7.4-01** から **2.7.5-03** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.7」（Rev.E）をご覧ください。

2.1 RADIUS 認証：バックアップ用認証機能

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

RADIUS 認証に失敗した際のバックアップ用認証機能を追加しました。

2.2 クラシファイア：TCP・UDP データ部（L5 コンテンツ）によるフィルタリング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

TCP・UDP パケットのデータ部（L5 コンテンツ）の内容に基づいてフィルタリングを行えるようになりました。フィルタリングの対象となるのは IPv4 上の TCP・UDP パケットで、照合できる箇所は TCP・UDP データ部の先頭から 38 Byte 目までの任意のバイト最大 16 個です（ただし、IP パケットの先頭から 80 Byte 以内に限り）。

設定は、CREATE CLASSIFIER コマンドに追加された L5BYTE01 ~ L5BYTE16 の 16 個のパラメーターで行います。

2.3 追加コマンド：SET PORTAUTH IDTOGGLE

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

802.1X Multi-Supplicant モードで動作している Authenticator ポートにおいて、EAP パケットの Identifier フィールドに値をどのようにセットするかを指定するコマンドが追加されました。

Supplicant として Windows XP SP2 ホストを使用している場合は、IDTOGGLE=ON に設定することで、ログインプロンプトが正しく表示されるようになります。

```
SET PORTAUTH [=8021X] IDTOGGLE={ON|OFF}
```

パラメーター


PORTAUTH: 認証メカニズム。本コマンドでは 8021X（802.1X 認証）のみ有効。省略時は 8021X と見なされるため、特に指定する必要はない。

IDTOGGLE: EAP パケットの Identifier フィールドに値をどのようにセットするか。
ON を指定した場合は 0 と 1 を交互にセットする。OFF を指定した場合は常に 0 をセットする。デフォルトは OFF。

備考・注意事項

IDTOGGLE=ON に設定すると、ポート認証を必要としない Windows XP ホストが同一ポートに接続されている場合、同ホスト上でログインプロンプトが常に表示されてしまうという弊害がある。

2.4 OSPF：ユニキャストによるメッセージ交換

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御 \(OSPF\)」](#)

VLAN 上において、OSPF のメッセージ交換をユニキャストで行えるようになりました。

設定は、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された NETWORK、POLLINTERVAL パラメーターと、ADD OSPF NEIGHBOUR コマンドで行います。

2.5 BGP-4：デフォルト経路の取り込み・通知の制御

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

BGP の経路表にデフォルト経路 (0.0.0.0/0) を取り込むかどうか、また、取り込んだデフォルト経路を BGP ピアに通知するかどうかを制御できるようになりました。デフォルトは取り込み・通知ともに「しない」です。

取り込みの設定は、新しく追加された ENABLE/DISABLE BGP DEFAULTORIGINATE コマンドで行います。通知の設定は、ADD BGP PEER コマンドに追加された DEFAULTORIGINATE パラメーターで行います。


2.6 BGP-4：自動集約機能


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御 \(BGP-4\)」](#)


自らが生成もしくは取り込んだ経路情報を、自動的にクラスフルネットワーク (クラス A、B、C のネットワーク) に集約して通知する機能が追加されました。デフォルトは「集約しない」です。

設定は、新しく追加された ENABLE/DISABLE BGP AUTOSUMMARY コマンドで行います。

2.7 IGMP/IGMP Snooping：Join 可能なグループの制限 (IGMP フィルター)


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP」](#)


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP Snooping」](#)

スイッチポートごとに、Join 可能なマルチキャストグループを制限する機能 (IGMP フィルター) が追加されました。

2.8 IGMP/IGMP Snooping : Join 可能なグループ数の制限

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP Snooping」](#)

スイッチポートごとに、Join 可能なマルチキャストグループアドレスの数を制限する機能が追加されました。グループの数が制限値に達した場合の処理としては、DENY（それ以降の Join を拒否）と REPLACE（古いグループエントリーを削除して新しいエントリーを登録）の 2 種類から選択できます。

設定は、SET SWITCH PORT コマンドに追加された IGMPMAXGROUP パラメーター（グループ数の指定）と IGMPACTION パラメーター（制限に達した場合の処理）で行います。


2.9 IGMP Snooping : 高速脱退機能 (Fast Leave)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP Snooping」](#)

IGMP Snooping に高速脱退 (Fast Leave) 機能が追加されました。通常、あるポートで Leave Group メッセージを受信したときは、Group-Specific Membership Query メッセージを何度か送信して（送信間隔と回数は LMQL、LMQC パラメーターで決定）、該当ポートの配下に他のメンバーホストが存在しないことを確認してから受信ポートをグループのメンバーリストから削除しますが、本機能を有効にしている場合は、Leave Group メッセージの受信後ただちに受信ポートをメンバーリストから削除します。本機能は、ポート配下に 1 台しかホストが接続されていないことを前提にした機能です。ポート配下に複数のホストが接続されている場合は有効化しないでください。

設定は、新しく追加された SET IGMPSPNOOPING FASTLEAVE コマンドで行います。

2.10 VRRP : プリエンプトモードにおけるマスター移行前待機時間の設定

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「VRRP」](#)

プリエンプトモード有効時、マスタールーターよりも高い優先度を持つルーターがマスターに移行する前に待機する時間を設定できるようになりました。

設定は、CREATE VRRP コマンドに追加された DELAY パラメーターで行います。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.4-01 から 2.7.5-03 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 BGP-4 : 最適経路の選択手順変更

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

特定のプレフィックスまでの経路が複数存在する場合に最適な経路を選択する手順を変更しました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.7.4-01 から 2.7.5-03 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 電源ユニット（PSU）を 2 個装着して冗長構成を組んでいるとき、本製品の起動完了前に電源ケーブルを抜き差しすると、PSU の LED 表示が不正になることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 CREATE CONFIG コマンドでコンパクトフラッシュに直接設定ファイルを作成すると、設定ファイル内の文字化けやシステムのレポートが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.3 CREATE CONFIG コマンドを実行しても、SET SWITCH CPUTXPRIORITY、SET SWITCH CPUTXQUEUE、SET IP DSCPOVERRIDE コマンドによる設定がファイルに保存されませんでした。これを修正しました。
- 4.4 RADIUS サーバーに Access-Request パケットを送信するとき、NAS-Port 属性を含めませんでした。これを修正しました。
- 4.5 SHOW USER RSO コマンドの「Failed logins」欄と「Last failed login」欄に値が表示されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 定時トリガー（CREATE TRIGGER TIME コマンド）が正しく動作しませんでした。これを修正しました。
- 4.7 大量の MAC アドレス登録時に SNMP マネージャーよりオブジェクト ID “1.3.6.1.2.1.17.4.3” の MIB に Get を実行した場合、システムがレポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.8 L3 テーブル作成時、誤った MAC アドレスを採用する場合があります。これを修正しました。
- 4.9 CREATE CONFIG コマンドを実行しても、DISABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンドの設定がファイルに保存されませんでした。これを修正しました。
- 4.10 LACP によって自動生成されたトランクグループがタグ付きの場合、同トランクグループとタグなしポートの間で高レートのトラフィックが流れると通信ができなく現象を修正しました。
- 4.11 SFP ポートで LACP トランク（LACP によって自動生成されたトランクグループ）を構成した場合、メンバーの SFP ポートを抜くと通信ができなくなる場合があります。これを修正しました。


- 4.12 DISABLE STP PORT コマンドの実行後に ENABLE STP コマンドを実行すると、各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になっていましたが、これを修正しました。
- 4.13 タグ付きポート上で LACP とスパニングツリープロトコル (STP) を併用した場合、SHOW STP PORT コマンドによるポート情報が正しく表示されませんでした。これを修正しました。
- 4.14 スパニングツリープロトコルにおいて、BPDU が正常に受信できないため、ポートの状態が Blocking にならず Forwarding となっていました。これを修正しました。
- 4.15 802.1X Multi-Suppliant モードの Authenticator ポートにおいて、サービスパック 2 (SP2) を適用した Windows XP を Suppliant として使用すると、ログインダイアログが表示されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.16 802.1X Multi-Suppliant モードの Authenticator ポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しても、認証済み Suppliant のスイッチフィルタエントリが削除されませんでした。これを修正しました。
- 4.17 Record Route オプション付きの IP パケットを受信しても経路を記録しませんでした。これを修正しました。
- 4.18 オプション付き IP パケットのフラグメント化処理時にレポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.19 SET OSPF コマンドを実行すると、OSPF の状態が初期化され、隣接関係がいったん解除されていましたが、これを修正しました。
- 4.20 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) を使用していると、OSPF の経路変更が正しく行えないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.21 ADD BGP PEER コマンド、SET BGP PEER コマンドの EHOPS パラメーターが機能しませんでした。これを修正しました。
- 4.22 特定のネットワーク宛の経路が複数ある環境で、IPv6 ルートテーブルの情報が更新された後、メトリックが小さいパスを使用しませんでした。これを修正しました。
- 4.23 RIPng にて受け取ったルートの中に自インターフェースのネットワークが含まれている場合、それをルートに反映しませんでした。これを修正しました。
- 4.24 いったん確立した隣接関係が解消されると、それ以降マルチキャストパケットを正しくルーティングできなくなっていました。これを修正しました。
- 4.25 (PIM-SM) DR でないインターフェースで IGMP Report を受信しても PIM Join メッセージを送信していましたが、これを修正しました。

- 4.26 Link-local-address 以外の 送信アドレスを持つ MLD パケットは破棄せず受け入れていましたが、これを修正しました。
- 4.27 SET IPV6 MLD コマンドのパラメーターにおいて、本来等しい値が設定される「Robustness Variable」、「Startup Query Count」、「Last Listener Query Count」に個別の値が設定できていましたが、これを修正しました。
- 4.28 Multicast Listener Interval の計算がされていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.29 Other Querier Present Interval の計算がされていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.30 MLD 有効時、Non-Querier のときでも、Done メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新していましたが、これを修正しました。
- 4.31 MLD 有効時、他のルーターから MLD Query パケットを受信すると、受信パケットの始点アドレスの大小に関係なく、Non-Querier に移行していましたが、これを修正しました。
- 4.32 クライアントがグループからタイムアウトするたびに MLD Snooping テーブルのエントリタイマーが表示上更新されていましたが、これを修正しました。
- 4.33 Multicast Listener Done メッセージを受信したときのタイムアウトの値を設定できませんでしたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.7.5-03 には、以下の制限事項があります。

5.1 コンパクトフラッシュへのファイル設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

- コンパクトフラッシュ上の設定ファイルを SET CONFIG コマンドで指定しても、起動時設定ファイルとして読み込めません。SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルに指定するファイルは、あらかじめフラッシュメモリーにコピーしてください。
- コンパクトフラッシュのディレクトリー名が長い場合、SHOW CLFASH コマンドが正常に表示できないことがあります。フルパス名が 200 文字を超えないようにディレクトリー名を設定してください。


5.2 SET LOADER、LOAD コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」

SET LOADER コマンドで HTTPPROXY パラメーターと SERVER パラメーターを同時に指定した場合、SERVER パラメーターの設定が保持されず、以後 LOAD コマンドが正しく動作


しないことがあります。HTTP プロキシ経由でファイルをダウンロードするときは、LOAD コマンドで必ず SERVER パラメーターを指定してください。

5.3 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。
- SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。
- PERMANENT ログの最大格納メッセージ数はデフォルト設定では 20 ですが、新たに作り直すと最大格納メッセージ数が 50 に変わります。

5.4 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- ifInErrors (MIB-II) の値が正しくありません。単位がパケット数ではなくオクテット数になっています。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません
- プライベート MIB の instRelMajor、instRelMinor、instRelInterim の値を取得できません。
- fanAndPpsPresent の MIB で、電源ユニットが装着されていない情報を SNMP マネージャーに送信しません。Bay 1 (PSU1) 側にユニットが装着されていない場合、本製品は値を返しません。
- ポートトランキングを使用しているとき、SHOW INTERFACE コマンドに COUNTERS パラメーターを指定して実行すると、トランクグループのカウンター値が 0 のまま増加しません。SHOW INTERFACE コマンドの INTERFACE パラメーターに トランクグループ名を指定して実行すると、正しいカウンター値が表示されるようになります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthPaeState において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ authenticated(5) になるべき MIB の値が、authenticating(6) になります。
 - ・ held(7) になるべき MIB の値が、aborting(6) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=5 CONTROL=AUTHORISED|UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(8) または forceUnauth(9) にならず、initialise(1) になりません。


- プライベート MIB の atrMacBasedAuthControlledPortStatus において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ 認証を行っていないにもかかわらず MIB の値が unauthorised(2) にならず、authorised(1) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=xx CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(10) または forceUnauth(12) にならず、never(1) になりません。

5.5 SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS パラメーター

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS パラメーター（同時に確立可能な Telnet セッション数）が正しく動作しません。実際には、指定した値 +2 として扱われます。たとえば、MAXSESSIONS=3 と設定した場合、MAXSESSIONS=5 として動作します。

5.6 ポートトランキング

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。
- トランクポートでタグ VLAN を使用している場合、本製品・対向機器ともにフローコントロールが有効な状態でトランクポートのケーブルを抜き差しすると、本製品が PAUSE フレームを送信することがあります。
- ポートトランキングと PIM-DM/SM を併用したとき、マルチキャストルーティングが正確に行えません。
- ポートトランキングとスパニングツリー（Rapid モード）を併用した場合、Topology Change が発生しても FDB をクリアしないため、通信ができなくなります。この現象は、スパニングツリーが Rapid モードの場合のみ発生します。

5.7 ポートセキュリティー

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


ポートセキュリティーの設定後に RESET SWITCH コマンドを実行すると、SHOW SWITCH PORT コマンドで表示される「Current learned, lock state」欄が「0, not locked」に戻り、ポートのロックも解除されます。

5.8 LACP (IEEE802.3ad)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE802.3ad)」


- LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。
- LACP において、一部のポートで通常とは異なるサイズのパケットが送出されることがあります。

5.9 タグ VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」


- すべてのポートをメンバーとするタグ VLAN を大量に作成し、各 VLAN に IP アドレスを割り当てている場合、いずれかのポートがリンクダウンすると一時的にコンソールの反応が悪くなります。
- IP サブネット VLAN を設定したとき、ARP パケットが該当 VLAN を通過しタグ付きポートから出力されても、パケットにタグが付与されません。

5.10 スパニングツリー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリー」

- VLAN のタグ付きポートで、タグなしの BPDU パケットが受信できないため、ループが起きます。
- スパニングツリー（Rapid モード）を使用しているとき、SHOW STP COUNTER で表示される TCN BPDU の値がカウントされません。

5.11 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

ルーティングパケットと本体（CPU）宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース（FDB）のスタティックエントリーが機能しません。

5.12 クラシファイア

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

- SHOW CLASSIFIER コマンドにおいて、L4SMASK、L4DMASK パラメーターのデフォルト値が FFFF ではなく ANY と表示されます。これは表示だけの問題で、ANY と表示されていても FFFF と同じ動作をします。
- CREATE CLASSIFIER コマンドにおいて、L4SMASK=0000（または L4DMASK=0000）と L4SMASK=ANY（または L4SMASK=ANY）が異なる条件で

あると認識されます (0000 と ANY は本来同じ意味)。このため、同一条件のクラシファイアを作成できてしまいます。

- 設定ファイルを保存し、再起動後、CREATE CLASSIFIER コマンドで ETHFORMAT=SNAP-UNTAGGED PROTOCOL=IP パラメーターを指定したクラシファイアにパケットがマッチしても、ハードウェアパケットフィルターのアクションが正常に動作しません。設定ファイルを直接編集して、PROTOCOL=0000000800 を PROTOCOL=IP に書き換えてください。

5.13 QoS

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

- UDPSPORT を条件に含むクラシファイアを 100 個以上使っている QoS ポリシーを全ポートに適用するとリポートすることがあります。これを回避するには、最初に空の QoS ポリシーをポートに適用し、その後 QoS ポリシーにトラフィッククラスやフローグループ、クラシファイアを割り当ててください。
- MAXBURSTSIZE と MINBURSTSIZE を 0 に設定した場合、メータリングが正しく動作しません。

5.14 ハードウェアパケットフィルター

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- CREATE CLASSIFIER コマンドで 「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。
- ハードウェアパケットフィルターとダブルタグ VLAN (Nested VLAN) の併用時、カスタマーポートで受信したパケットに対して、INNERVLANID、INNERVLANPRIORITY、INNERTPID パラメーターが機能しません (DISCARD を指定しても破棄されません)。
- ハードウェアパケットフィルターのアクションに SETL2QOS を指定すると、IP TOS 値が 0 に書き換えられます。


5.15 ポート認証

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- PIGGYBACK=TRUE の Authenticator ポートにおいて、ある Supplicant を認証した後、PIGGYBACK=FALSE に設定を変更しても、直接認証を受けていないホスト (PIGGYBACK で通信しているホスト) のエントリーが FDB から削除されないため、引き続き通信が許可されます。
- DISABLE PORTAUTH コマンドを実行しても、認証済み Supplicant のスイッチフィルターエントリーが削除されません。


- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVETIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで $\text{TIMEOUT} \times (\text{RETRANSMITCOUNT} + 1)$ の値を SERVETIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVETIMEOUT の設定が正しく機能します。
- RADIUS サーバーによってダイナミック VLAN を割り当てられた Supplicant がリンクダウン、ログオフなどで存在しなくなった場合、プライベート MIB である AuthPreAuthVlan、AuthPostAuthVlan が不正な値を返します。
- RESET PORTAUTH PORT コマンドに SUPPLICANTMAC パラメーターを指定して実行すると、対象 Supplicant 情報ばかりではなく、ポート上のすべての Supplicant の MAC アドレスを FDB から削除します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Supplicant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。

5.16 TRACE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

5.17 ICMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

5.18 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- OSPF インターフェースの IP アドレスを変更すると、その後 IP アドレスを元に戻しても OSPF の隣接関係が回復しません。
- IP ルートテーブルにデフォルトルートがなくても、SET OSPF コマンドで DEFROUTE=ON を指定した場合は、デフォルトルートを LSA として追加します。
- ADD OSPF STUB または ADD OSPF HOST コマンドがすでに設定されている状態で同一コマンドを再入力すると、OSPF の Hello パケットの送受信が行われなくなります。この場合は、RESET OSPF コマンド、RESET OSPF INTERFACE コマンド、DISABLE / ENABLE OSPF コマンドのいずれかを入力するか、設定ファイルを保存後再起動してください。
- 16777214 より大きいメトリックを持つルートをルートテーブルに反映できません。

5.19 BGP-4

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

- Route Flap Damping 有効時、同一ネットワークへのプレフィックスを受信してルートセレクションの結果に選ばれたプレフィックスが Withdrawn した場合に、BGP DAMPING ROUTE テーブルの Prefix/Mask 値に不正な値が表示されます。
- プライベート AS フィルターを有効にすると、自身のプライベート AS 番号まで削除してしまいます。
- ルートマップなどによって複数の AS_PATH セグメントが先頭に追加された UPDATE を受信したとき、BGP ルートテーブルでは AS_PATH 属性の順番が正しくありません。
- ルートマップなどによって複数の AS_PATH セグメントが先頭に追加された UPDATE を受信したとき、その経路を他 AS のピアに UPDATE する時の AS_PATH 属性は正しくありません。
- BGP-4 の自動ソフトリセットが有効のとき、BGP ピアに対して SET BGP PEER コマンドで DEFAULTORIGINATE=YES に設定しても、自動ソフトリセットが動作しません。
- ブラックホール経路が追加 / 削除された時、BGP ルートテーブルは正しく更新されません。
- SET BGP PEER コマンドに PEER=ipadd パラメーター、および LOCAL=NONE パラメーターを指定して実行しても、コマンドが反映されません。EDIT コマンドを使用して直接指定してください。

5.20 名前解決

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

5.21 ARP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

Gratuitous ARP パケットの受信時、受信インターフェースと異なるネットワークの IP アドレスであっても、そのアドレスを ARP キャッシュに登録します。

5.22 IPv6

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- IPv6 において、インターフェースがダウンした場合、Lifetime フィールドが 0 のルーター通知 (RA) パケットが送信されません。
- ルーター通知 (RA) において、SET IPV6 PREFIX コマンドでパラメーターに ONLINK=NO を指定して実行すると、プレフィックス情報オプションの L フラグだけでなく、A フラグ (AUTONOMOUS パラメーター) もオフになってしまいます。
- ENABLE IPV6 DEBUG コマンドで IPv6 デバッグを有効にすると、設定ファイルにデバッグの一部が反映されます。
- IPv6 アクセラレータボードを搭載していても、ワイヤーレートでの IPv6 ルーティングができません。合計の帯域が 4Gbps 以下の場合は、ワイヤーレートでの IPv6 ルーティングは可能です。
- IPv6 のループ構成でポイズンリバースが動作しません。

5.23 ルーター通知 (RA)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存しても同コマンドが書き込まれません。これを回避するには、EDIT コマンドで直接設定ファイルに記入するか、再起動トリガーを使用して起動直後に同コマンドを実行させるかしてください。

5.24 DVMRP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

- DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

5.25 PIM-DM

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッディングすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください (デフォルトは 210 秒)。

5.26 PIM-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- PIM-SM 関連のログと SNMP トラップを有効にしても (SET PIM LOG コマンド)、PIM インターフェース削除時のログとトラップが生成されません。

5.27 IGMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」


Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

5.28 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」


IP の設定がされていないと、Leave メッセージを受信したときに受信ポートをグループから削除します。

5.29 IPv6 マルチキャスト

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」

- IPv6 ルートが変更されたときにマルチキャストルートが正しく変更されないため、クライアントが Join していてもマルチキャスト (トラフィック / パケット) を受信できません。
- Query Response Interval (SET IPV6 MLD コマンドの QRINTERVAL パラメーター) を 33 (秒) 以上に設定すると、Max Response Delay フィールドに不正な値が反映されてしまいます。

5.30 VRRP


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

SET VRRP コマンドで ADOPTVRIP=ON に設定した場合、本製品から送信される ICMP Reply の始点アドレスが実インターフェースアドレスを使用するため、Windows XP ではタイムアウトが発生し、通信ができません。(Windows 2000 などの OS では問題なく通信できます。)

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正


同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.7 (Rev.E)」の補足事項です。

6.1 HTTP サーバー（サポート対象外）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」


本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティーを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.2 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア（ファイル名とバージョンが同じもの）を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

6.3 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

6.4 ユーザープライオリティー 6～7 のブロードキャスト転送レート

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


ユーザープライオリティー（802.1p）6～7 を持つブロードキャストパケットの転送レートは約 50% です。


6.5 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

6.6 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

送信ポートの帯域制限機能（EGRESSLIMIT）と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング（WRR）は併用できません。

6.7 ポートランキング

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」 / 「ランキング」

ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。

6.8 マルチプル VLAN (Private VLAN)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

マルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートでは、DHCP、SNMP、Telnet など、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

6.9 MAC アドレス登録数

参照 「取扱説明書」 143 ページ 「本製品の仕様」

取扱説明書には、MAC アドレス登録数が「15K (最大)」と記載されていますが、正しくは「16K (最大)」です。

6.10 クラシファイアの割り当てについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

1 つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルタとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルタに割り当てたクラシファイアしか機能しません。

6.11 IP 統計情報

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品では、IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

6.12 ICMP メッセージ

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

6.13 経路制御

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC を指定すると、METRIC 値は METRIC1 として設定されてしまいますが、動作に影響はありません。

6.14 BGP-4

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」


ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAXPREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただちにセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。


6.15 DVMRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目)には対応していません。

6.16 VRRP/802.1X 認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

VRRP と 802.1X 認証は併用できません。

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

APPLETALK、CLNS、DHCP6、ENCO、FIREWALL、GARP、GRE、GUI、HTTP、IPSEC、IPX、ISAKMP、L2TP、LDAP、LOADBALANCER、LB、PIM6、PKI、PPP、PPPOE、RSVP、SA、SSL、STAR、TACACS、TACPLUS、TEST、MSTP

- 以下のコマンド (パラメーター)
COPY
DUMP
MODIFY
START/STOP/SET PKT
SHOW BUFFER [SCAN[=ADDRESS]] [QUEUEPOINTERS]

SHOW SYSTEM TEMPERATURE

LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]

TRACE [ADDRONLY]

```

PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEAD-
DRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE={ALL|UPDATE}
PURGE PING TOTALLY

```

```

ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG
SET/SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [JUMBO]
SET SWITCH PORT [SPEED={xxxMHAUTO|xxxMFAUTO}]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST

```

```

ADD VLAN PORT [UPLINK]

```

```

ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP ROUTE FILTER [POLICY=0..7]
ADD/DELETE/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SHOW/ENABLE/DISABLE IP HELPER
ADD/SET/SHOW/DELETE IP SA
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER]
[PRIORITYFILTER] [MULTICAST]
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL
ENABLE/DISABLE IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP POOL
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
ADD IP ROUTEMAP [MATCHTAG]

```

```

ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP|DHCPTMP|PD} [APPINT] [FILTER]
[HINT] [KEY]
ADD IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]
ADD IPV6 FILTER [PRIORITY]
DELETE IPV6 FILTER
SHOW IPV6 FILTER
SET IPV6 PREFIX

```

SHOW IPV6 MULTICAST

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESS-
ING;PRED;STAC;USER;UTIL}

ADD/DEL IPX EXCLUSION
ADD/DEL IPX INCLUSION
SHOW IPX EXCLUSION
SHOW IPX INCLUSION
SHOW IPX CACHE
SHOW IPX CALLLOG

ENABLE/DISABLE QOS DEBUG

ADD/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE] [DLCI]
DELETE PIM INTARFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]
ADD/SET PIM BSRCANDIDATE [HASHMASKLENGTH]

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]
[NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOPERATION] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACHECK] [TERMINATE]
[TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

ADD/DELETE/SET OSPF NEIGHBOUR

8 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0021-12 Rev.E)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0021-12 Rev.E」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>